

教育研究業績書

2016年10月01日

所属：薬学科

資格：教授

氏名：片岡 和三郎

研究分野	研究内容のキーワード
医療薬学	医薬品の適正使用 医薬品情報
学位	最終学歴
博士（薬学）	神戸学院大学大学院 薬学研究科 薬学専攻 修士課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月日	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 医薬品の開発過程で得られる情報	共	2011年1月15日	『医薬品情報学』（柴田敏之, 橋詰勉編）廣川書店, 東京, 85-99 (2011)	医薬品の開発から製造販売承認申請に至る必要な各種試験と、そこから得られる情報について解説した。
2 学位論文				
3 学術論文				
1. Microbiological challenge test of contamination caused by using the PhaSeal System.	共	2013年	Jpn. J. Pharm. Health Care Sci, 39, 148-155	Hama, K., Hashida, T., Kataoka, K.,
2. Verification of external surface contamination of Japanese 5-fluorouracil vials and removal of contamination by washing the vials.	共	2013年	Jpn. J. Pharm. Health Care Sci, 39, 451-456	Hama, K., Hashida, T., Kataoka, K.
3. Verification of surface contamination of Japanese cyclophosphamide vials and an example of exposure by handling.	共	2012年	J Oncol Pharm Pract 18, 201-206	Hama K, Fukushima K, Hirabatake M, Hashida T, Kataoka K.
4. 多発性骨髄腫に対するBortezomib療法の適正使用	共	2011年	医療薬学, 37, 297-303	富士谷昌典, 小泉祐一, 佐塚有希, 町谷安紀, 西原舞, 野村真美, 片岡和三郎
5. 外来がん化学療法における疑義紹介事例の解析—併用内服薬を含めた処方鑑査による有害事象の回避—	共	2010年	医薬品情報学, 11, 163-167	赤瀬博文, 濱 宏仁, 平畑正樹, 大音三枝子, 片岡和三郎, 橋田 亨
6. Investigation on residual-related error and the effect of solution properties using protective devices for the reconstitution of cytotoxic agents in actual situations.	共	2010年	J Oncol Pharm Pract., 17, 55-60	Hama, K., Kitada, N., Fukushima, K., Hashida, T. and Kataoka, K.
7. Effect of dose-escalation of 5-fluorouracil on circadian var	共	2010年	Int. J. Med. Sci., 7, 48-54 (2010)	Akiko Kuwahara, Motohiro Yamamori, Kohshi Nishiguchi, Tatsuya Okuno, Naoko Chayahara, Ikuya Mi

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
iability of its pharmacokinetics in Japanese patients with Stage III/IVa esophageal squamous cell carcinoma				ki, Takao Tamura, Kaori Kadoyama, Tsubasa Inokuma, Yoshiji Takemoto, Tsutomu Nakamura, Kazusaburo Kataoka, Toshiyuki Sakaeda
8. 微生物学的見地による抗がん剤バイアル製剤の分割使用の検討と診療報酬算定方法に基づいた薬剤経費削減効果の試算	共	2009年	医療薬学	濱 宏仁、黒川 学、片岡和三郎
9. Replacement of cisplatin with nedaplatin in a definitive 5-fluorouracil/cisplatin-based chemoradiotherapy in Japanese patients with esophageal squamous cell carcinoma.	共	2009年	Int. J. Med. Sci.	A. Kuwahara, M. Yamamori, K. Nishiguchi, T. Okuno, N. Chayahara, I. Miki, T. Tamura, T. Inokuma, Y. Takemoto, T. Nakamura, K. Kataoka, and T. Sakaeda
10. 食道がん化学療法における5-フルオロウラシル血漿中濃度と副作用との相関	共	2009年	TDM研究	・ 柴原晶子、山森元博、中村 任、西口浩司、奥野達哉、茶屋原菜穂子、三木生也、田村孝雄、平井もどり、片岡和三郎、柴田敏之
11. 調製支援情報による抗がん剤調製過誤対策の導入—注射薬調製ラベルを利用したシステムの開発—	共	2008年04月	医療薬学	平島正樹、濱 宏仁、山本健児、赤瀬博文、大音三枝子、田村昌三
12. 血漿交換療法および血液透析施行患者における薬物動態—バンコマイシンの血漿中濃度に影響を及ぼした1症例—	共	2007年12月	日本病院薬剤師会雑誌	中浴伸二、山本健児
13. 注射オーダーシステムにおける入院化学療法注射指示の導入と評価	共	2007年10月	医療情報学	濱 宏仁、平島正樹、田中詳二、妻木邦彰
14. うつ病クリニカルパスに則った服薬指導の評価	共	2007年06月	日本病院薬剤師会雑誌	・ 佐々木亜紀、小田稔彦、田中久美子、藤村恵理、高橋年道、松石邦隆、北村 登、三田達夫
15. Regression of Abdominal Aortic Aneurysms by Simultaneous Inhibition of Nuclear Factor κ B and Ets in a Rabbit Model.	共	2007年	Circulation Research	Takashi Miyake, Motokuni Aoki, Hisao Masaki, Tomio Kawasaki, Masako Oishi, Kazusaburo Kataoka, Toshio Ogihara, Yasufumi Kaneda and Ryuichi Morishita
16. 外来がん化学療法における処方疑義照会の解析	共	2006年08月	医療薬学	濱 宏仁、平島正樹、田村昌三、岩森繁夫
17. Prevention of abdominal aortic aneurysms by simultaneous inhibition of NF κ B and ets using chimeric decoy oligonucleotides in a rabbit model.	共	2006年	Gene Ther.	Miyake T, Aoki M, Nakashima H, Kawasaki T, Oishi M, Kataoka K, Tanemoto K, Ogihara T, Kaneda Y, and Morishita R
18. Hypertension Accelerated Experimental Abdominal Aortic Aneurysm Through Upregulation of Nuclear Factor κ B and Ets	共	2006年	Hypertension	Suguru Shiraya, Ken Miwa, Motokuni Aoki, Takashi Miyake, Masako Oishi, Kazusaburo Kataoka, Shigetsugu Ohgi, Toshio Ogihara, Yasufumi Kaneda, and Ryuichi Morishita
19. 神戸中央市民病院における勧告実施前後におけるバンコマイシン点滴静注処方の変化	共	2005年12月	医療薬学	奥貞 智、中浴伸二、山本健児、喜田勝也、片岡和三郎、永井謙一、春田恒和、関 庚善、小野坂敏見、梅澤智佐江
20. Inhibition of Ets, an Essential Transcription Factor for Angiogenesis, to Prevent the Development of Abdominal Aortic Aneurysm in a Rat Model.	共	2005年	Gene Ther.	Ken Miwa, Hideki Nakashima, Motokuni Aoki, Takashi Miyake, Tomio Kawasaki, Masahiro Iwai, Masako Oishi, Kazusaburo Kataoka, Shigetsugu Ohgi, Toshio Ogihara, Yasufumi Kaneda and Ryuichi Morishita.
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 早期体験学習における教育効果の解析—学生に対するアンケート調査を基に—	共	2009年03月		柴原晶子、土本寛子、富山直樹、片岡和三郎
2. 重症心身障害児・者施設における早期体験学習とその評価—学生および施設職員へのアンケート調査—	共	2009年01月		有馬美香、大石美恵、山口みゆき、水戸 敬、柴原晶子、西庄京子、片岡和三郎、内田亨弘、市川 厚
3. 抗がん剤バイアル製剤の分割使用の検討とその薬剤経費削減効果	共	2008年09月		濱 宏仁、黒川 学、片岡和三郎、橋田 亨
4. エノシタピンの簡便な溶解方法の導入	共	2008年02月		福嶋 浩一、平島 正樹、濱 宏仁、片岡和三郎
5. 大病院における注射剤混合業務のあり方（教育講演）	単	2007年12月		
6. オピオイド製剤の適正使用への取り組み～当院におけるレスキュードーズの調査～	共	2007年10月		稲角利彦、田中 詳二、片岡和三郎

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
7. リネゾニドの副作用に関する調査	共	2007年10月		中浴 伸二, 片岡和三郎, 林 三千雄, 春田 恒和
8. 注射情報システムにおけるオーダリングデータインポートシステムの開発について	共	2007年09月		山本健児, 濱 宏仁, 田中 詳二, 岩森 繁夫, 妻木 邦彰, 片岡和三郎
9. エノシタピンの溶解方法の検討	共	2007年09月		大音三枝子, 平島 正樹, 濱 宏仁, 片岡和三郎
10. がん化学療法点滴治療における併用内服薬に関する疑義照会事例の検討	共	2007年09月		赤瀬 博文, 濱 宏仁, 平島 正樹, 大音三枝子, 田村 昌三, 片岡和三郎
11. がん化学療法無菌混合調製業務に問題点とその解決策ー血液内科がん化学療法における取り組み	共	2007年09月		平島 正樹, 濱 宏仁, 田中 詳二, 片岡和三郎
12. 抗がん剤注射剤のMulti-use化の検討ーエトポシド注における検討	共	2007年09月		濱 宏仁, 田村 昌三, 福嶋 浩一, 赤瀬 博文, 平島 正樹, 大音三枝子, 片岡和三郎
13. ベルテポルフィン注射薬調製業務の取り組み	共	2007年07月		大音三枝子, 濱 宏仁, 平島正樹, 赤瀬博文, 田村昌三, 片岡和三郎
14. 薬学6年制学生実習への問題点ー実務実習モデル・コアカリキュラムの試験導入からの考察ー	共	2007年07月		濱 宏仁, 巽 弥生, 福嶋浩一, 山本健児, 稲角利彦, 奥貞 智, 片岡和三郎
15. 当院における糖尿病治療薬の薬物療法に関する実態調査	共	2007年05月		奥貞 智, 赤瀬博文, 登 佳寿子, 大音美枝子, 山本健児, 西岡和子, 重光寛子, 片岡和三郎
16. Risk reduction in cancer chemotherapy - Importance of a system for checking prescriptions for oral agents in drip infusion therapy -	共	2007年04月		Hirofumi Akase, Koji Hama, Msaki Hirabatake, Miko Ohto, Shozo Tamura and Kazusaburo kataoka
17. 当院での学生実習への「実務実習モデル・コアカリキュラム」の導入とその問題点	共	2007年03月		奥貞 智 濱 宏仁, 稲角 利彦, 山本健児, 公門法子, 福嶋浩一, 巽 弥生, 片岡和三郎
18. 経腸栄養剤の長期施用患者における微量元素 (Se, Cr, Mo) の栄養評価	共	2007年02月		田村昌三, 西岡和子, 岩森繁夫, 片岡和三郎
19. 前立腺生検クリニカルパスへの薬剤師の取り組み	共	2007年01月		松岡勇作, 奥貞 智, 杉本信次, 西岡和子, 大音三枝子, 重光寛子, 片岡和三郎
20. 抗MRSA薬届出制の開始によつTDM実施率の変化について	共	2007年01月		中浴伸二, 柏木裕子, 片岡和三郎
21. 新入局薬剤師の調剤研修方法の試みーモデル・コアカリキュラムに基づいた学生実務実習指導への関与ー	共	2007年01月		福嶋浩一, 巽 弥生, 濱 宏仁, 妻木邦彰, 片岡和三郎
22. 調製ラベルを利用したがん化学療法における調製時リスクの回避について	共	2006年10月		大音三枝子, 濱 宏仁, 山本健児, 平島 正樹, 田村 昌三, 岩森繁夫, 片岡和三郎
23. 外来がん化学療法における処方疑義照会の解析 その2ー開始初年と2年目の比較ー	共	2006年09月		濱 宏仁, 平島正樹, 田村昌三, 赤瀬博文, 公門法子, 大音三枝子, 岩森繁夫, 片岡和三郎
24. アントラサイクリン系抗がん剤の累積投与限界量超過を回避できた2症例	共	2006年07月		平島正樹, 濱 宏仁, 田村昌三, 岩森繁夫, 片岡和三郎
25. Attempt of the risk aversion with the preparation label for the injection	共	2006年07月		Koji Hama, Kenji Yamamoto, Msaki Hirabatake, Shozo Tamura, Shigeo Iwamori and Kazusaburo kataoka
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				
学会及び社会における活動等				
年月日		事項		